

桂記念治療的自己研究基金 創設趣意書

故桂戴作先生は、日本大学医学部心療内科の科長としての臨床実践を通して、心身医療の質の向上をはかるためには、それぞれの臨床家がその臨床実践の中での独自の貴重な体験から得ているものについての忌憚のない意見の交換ができる機会をつくる必要があることに気づいておられた。しかし、日本心身医学会のように、心身医学の基礎的研究領域から診療各科の臨床的研究領域にわたる幅広い領域の会員により構成されている学会においては、そのような時間を取ることはきわめて難しいことである。

このような状況のもと、先生はご自分が専門とされている内科系の心身症を主要対象とした臨床的研究成果について十分に議論できる機会の設定が可能な学会として、日本心療内科学会の創設（平成八年）に尽力された。そしてその初代理事長に推された先生は、第一回日本心療内科学会総会・学術大会を主宰されるなど、本学会の揺籃期を支えられ、今日の発展の基礎を築かれた。

平成一六年に名誉理事長となられてからも、私どもをご指導下さった先生は、晩年、「心身医療の実践に当たっては、心身医学の知識や診療技法の修得だけではなく、治療者自身が治療的自己の育成に努める必要があると考えるようになったので、是非その治療的自己の評価法やその育成法に関する研究を進め、その成果に基づく『治療的自己 自己評価チェックリスト』を作って欲しい」と身近にいる会員に話され、いつも本学会の将来のことを考えておられた。

先生が、逝去される前日まで本学会の発展のために尽くされた多大なご貢献とご功績を称えるとともに、晩年遺言のように話しておられたお言葉の本学会会員に対する宿題と受け止め、それをやり遂げることを目的に、ご遺族より本学会にご寄付頂いた資金を基に、「桂記念治療的自己研究基金」を設立することとする。

なお、本基金は、先生のご遺志を継ぎ、その実現をはかるべく、同時に発足させる「治療的自己研究会」の研究活動を維持、発展させるために活用するものとする。

平成二十年十一月二十八日

特定非営利活動法人 日本心療内科学会